

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲医第 <b>1426</b> 号	氏名	森本 雅俊
審査委員	主査 鶴尾 吉宏 副査 原田 雅史 副査 高木 康志		

題目 Age-related changes in axial and sagittal orientation of the facet joints:  
Comparison with changes in degenerative spondylolisthesis

(横断像と矢状断像における椎間関節角度の加齢性変化:変性すべり症症例との比較)

著者 Masatoshi Morimoto, Kosaku Higashino, Hiroaki Manabe, Fumitake Tezuka, Kazuta Yamashita, Yoichiro Takata, Shoichiro Takao, Toshinori Sakai, Takashi Chikawa, Akihiro Nagamachi, Koichi Sairyo  
平成 31 年 1 月発行 Journal of Orthopaedic Science  
第 24 巻第 1 号 50 ページから 56 ページに発表済  
(主任教授 西良浩一)

要旨 椎間関節は、椎間板とともに脊柱の働きの制御や脊柱の安定性に寄与しており、椎間関節の矢状化が腰椎変性すべり症の発生原因の一つであると報告されている。しかしながら、これまでは横断像のみの評価であり、立体的である椎間関節の評価としては不十分であった。そのため、本研究では CT 画像の横断像および矢状断像を用いて椎間関節角度を計測し、変性すべり症を有している群と有していない群、さらに各年齢群に分け比較検討し腰椎変性すべり症の成因を明らかにした。得られた結果は以下の如くである。

(1) 横断像の男性では、椎間関節角度はどの年齢群にも有意差がみられなかった。